

三菱 零式艦上戦闘機 52乙型

ハセガワ 1/100スケールプラスチックキット

製作・文：政府開発援助

1. 零戦52乙型について

軽快な運動性と想像を絶する航続距離で快進撃を続けた零戦であったが、戦闘機同士の闘いが格闘戦から一撃離脱戦に変わりB17やB25等の大型爆撃機を相手にする機会が多くなってきたこともあって、速度や火力・防御性能の向上が求められるようになった。零戦52型シリーズはこの面に主眼をおいた改良型で、翼幅の短縮と推力式単排気管の装備により速度の向上を図り、約6,000機が生産されて終戦まで海軍航空隊の主力として戦い続けた。

零戦52乙型は胴体機銃の右1門を13mm機銃に換装するとともに風防前面に防弾ガラスを追加したもので、大型爆撃機相手に使用された。また離陸距離が短いことから、ミッドウェー海戦以降配備された仮設空母(商船等を回収して飛行甲板を設けたもの)に爆撃機として搭載することを想定して、増槽を翼下に装着し胴体には25番爆弾を懸架できるようにしているのも特徴である。

2. キットについて

ワンアワーコインシリーズとして展開されているものを使用しました。キャノピー枠と主要部品が塗装されたはめ込み式のキットで、どちらかという入門用キットの様な仕様ながらプロポーション・モールドともきちりしています。

3. 製作と塗装について

カウリング・コクピット・脚収納部・主脚カバー等に定番の工作を施しています。カウリング右側の機銃口をひと回り大きくし、翼下面には翼内機銃ハッチのふくらみを追加しました。20mm機銃はステンレス線に替えています。52乙型の特徴である翼下の150リットル増槽は童友社の飛燕のものをベースに自作し、複製して左右分を揃えています。

塗装について、52乙型は数が少なく三菱でのみ製造されたという情報があり、その一方で再現した筑波航空隊の機体は明らかに中島製52型の塗り分けパターンになっていることから、三菱製の機体を(何らかの事情で)中島パターンに再塗装したものと判断しました。機体下面にクレオスの明灰白色を吹いた後、ラッカー系の濃緑色を用いて上面を筆塗りで塗り分けています。コクピット・カウリング・脚収納部等は三菱系色のままにしてみました。マーキングは前述の筑波航空隊の実戦配備機のもので、機番や日の丸・13mm機銃同調目盛用白線のデカールはハセガワの1/48キットを参考にデータを起こしてMDプリンタで自作したものを使用しています。墨入れはエナメル系の調合色とガンダムマーカーのグレイ系統の物を併用しました。



前方より



後方より